令和７年度中学校国語　２年　出典一覧

単元	ページ	教材名	書名	著作者	発行所	刊行年
巻頭	前見返し2-3	名づけられた葉	現代詩文庫６４　新川和江詩集	新川和江	思潮社	1975年
	前見返し4	言葉の楽しみ	書きおろし	加藤周一		
一	24-35	タオル	はじめての文学　重松清	重松清	文藝春秋	2012年第4刷 (2007年第1刷)
	46	四季のたより　春　花 み吉野の高嶺の桜散りにけり嵐も白き春のあけぼの　（後鳥羽院）	新編日本古典文学全集43　新古今和歌集	峯村文人　校注・訳	小学館	1995年
	46	四季のたより　春　花 花の雲鐘は上野か浅草か（芭蕉）	新編日本古典文学全集70　松尾芭蕉集	井本農一・堀信夫　注解	小学館	1995年
二	52-54	日本の花火の楽しみ	書きおろし	小野里公成		
	56-61	水の山　富士山	書きおろし	丸井敦尚		
三	74-78	夢を跳ぶ	書きおろし	谷真海		
	86-87	ＳＮＳから自由になるために	書きおろし	高橋暁子		
	88	脚本で動きを説明する 『雪渡り』脚本	宮沢賢治名作童話　学校放送劇・舞台劇脚本集 「雪渡り」	平野直	東洋書院	2008年
	89	脚本で動きを説明する 『銀河鉄道の夜』小説	【新】校本宮沢賢治全集　第11巻　童話Ⅳ　本文篇　「銀河鉄道の夜」	宮沢賢治	筑摩書房	1996年
	89	脚本で動きを説明する 『銀河鉄道の夜』脚本	宮沢賢治名作童話　学校放送劇・舞台劇脚本集 「銀河鉄道の夜」	平野直	東洋書院	2008年
	90	脚本で動きを説明する 『風少年』	風少年	小檜山博	講談社	2000年
	94	四季のたより　夏　ほととぎす 暮るるかと見れば明けぬる夏の夜を飽かずとや鳴く山ほととぎす（壬生忠岑）	新編日本古典文学全集11　古今和歌集	小沢正夫・松田成穂　校注・訳	小学館	1994年
	94	四季のたより　夏　ほととぎす ほととぎす平安城を筋違に（蕪村）	日本秀歌秀句の辞典	小学館辞典編集部	小学館	1995年
四	99	持続可能な未来を創るために 「障害」に違和感、こう呼んでは？	2018年9月5日付　朝日新聞 朝刊 「どう思いますか」欄		朝日新聞社	2018年
	99	持続可能な未来を創るために つながり感じられる「要支援者」	2018年9月5日付　朝日新聞 朝刊 「どう思いますか」欄		朝日新聞社	2018年
	100	持続可能な未来を創るために 「支援」を共生共存社会の礎に	2018年9月5日付　朝日新聞 朝刊 「どう思いますか」欄		朝日新聞社	2018年
	100	持続可能な未来を創るために 障害は人格と無縁、違和感ない	2018年9月5日付　朝日新聞 朝刊 「どう思いますか」欄		朝日新聞社	2018年
	101	持続可能な未来を創るために 障害者も他人を支援しています	2018年9月5日付　朝日新聞 朝刊 「どう思いますか」欄		朝日新聞社	2018年
	102-103	持続可能な未来を創るために 「ここにいる」を言う意味	2018年9月21日付 北國新聞 夕刊を元に加筆修正	ロバート　キャンベル	北國新聞	2018年
	104	持続可能な未来を創るために 一〇〇年後のみなさんへ	共に生きるということ	緒方貞子	PHP研究所	2013年
	108-114	紙の建築	書きおろし	坂茂		
	122	四季のたより　秋　紅葉 嵐吹く三室の山のもみぢ葉は竜田の川の錦なりけり（能因法師）	新日本古典文学大系8 後拾遺和歌集	久保田淳・平田喜信　校注	岩波書店	1994年
	122	四季のたより　秋　紅葉 夕もみぢ谷残虹の消えかかる（一茶）	古典俳文学大系15 一茶集	丸山一彦・小林計一郎 校注	集英社	1970年
	124-131	敦盛の最期　平家物語　祇園精舎	新編日本古典文学全集45　平家物語１	市古貞二　校注・訳	小学館	1994年
	124-131	敦盛の最期　平家物語　敦盛の最期	新編日本古典文学全集46　平家物語２	市古貞二　校注・訳	小学館	1994年
	134-135	随筆の味わい　枕草子　春はあけぼの	新編日本古典文学全集18　枕草子	松尾聡・永井和子　校注・訳	小学館	1999年

五	136	随筆の味わい　枕草子　うつくしきもの	新編日本古典文学全集18　枕草子	松尾聡・永井和子　校注・訳	小学館	1999年
	137	随筆の味わい　徒然草　つれづれなるままに～（序段）	新編日本古典文学全集44　方丈記 徒然草 正法眼蔵随門記 歎異抄	神田秀夫・永積安明・安良岡康作　校注・訳	小学館	1998年
	138	随筆の味わい　徒然草　仁和寺にある法師	新編日本古典文学全集44　方丈記 徒然草 正法眼蔵随門記 歎異抄	神田秀夫・永積安明・安良岡康作　校注・訳	小学館	1998年
	138-140	随筆の味わい　徒然草　奥山に猫またといふものありて	新編日本古典文学全集44　方丈記 徒然草 正法眼蔵随門記 歎異抄	神田秀夫・永積安明・安良岡康作　校注・訳	小学館	1998年
	144-145	二千五百年前からのメッセージ　孔子の言葉 子曰はく、「学びて時に之を習ふ……」	新釈漢文大系第１巻　論語	吉田賢抗	明治書院	1960年
	146	二千五百年前からのメッセージ　孔子の言葉 子曰はく、「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すことなかれ」	新釈漢文大系第１巻　論語	吉田賢抗	明治書院	1960年
	146	二千五百年前からのメッセージ　孔子の言葉 子曰はく、「之を知るを之を知ると為し、知らざるを……」	新釈漢文大系第１巻　論語	吉田賢抗	明治書院	1960年
	148-159	坊っちゃん	漱石全集　第二巻	夏目金之助	岩波書店	2002年
六	166-173	短歌の味わい	書きおろし	穂村弘		
	166	短歌の味わい 白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ	若山牧水全集　第一巻	若山牧水	雄鶏社	1958年
	167	短歌の味わい 濁流だ濁流だと叫び流れゆく末は泥土か夜明けか知らぬ	齋藤史全歌集	齋藤史	大和書房	1997年
	168	短歌の味わい 観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生	栗木京子歌集(現代短歌文庫)	栗木京子	砂子屋書房	2001年
	168	短歌の味わい 春のプール夏のプール秋のプール冬のプールに星が降るなり	水中翼船炎上中	穂村弘	講談社	2018年
	170	短歌の味わい　短歌十首 くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる	子規全集　第六巻　短歌　歌會稿	正岡子規	講談社	1977年
	170	短歌の味わい 短歌十首 ああ皐月仏蘭西の野は火の色す君も雛罌粟われも雛罌粟	鉄幹 晶子 全集９	与謝野寛・与謝野晶子	勉誠出版	2004年
	170	短歌の味わい　短歌十首 みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとぞただにいそげる	斎藤茂吉全集　第一巻	斎藤茂吉	岩波書店	1952年
	170	短歌の味わい　短歌十首 不来方のお城の草に寝ころびて/空に吸はれし/十五の心	新編 啄木歌集	久保田正文　編	岩波書店	2006年
	170	短歌の味わい　短歌十首 日本脱出したし　皇帝ペンギンも皇帝ペンギン飼育係りも	歌集　日本人霊歌	塚本邦雄	四季書房	1958年
	171	短歌の味わい　短歌十首 海を知らぬ少女の前に麦藁帽のわれは両手をひろげていたり	寺山修司青春歌集	寺山修司	角川書店	2005年
	171	短歌の味わい　短歌十首 俺は帰るぞ俺の明日へ　黄金の疲れに眠る友よおやすみ	佐佐木幸綱の世界 第１期・全８巻　１	佐佐木幸綱	河出書房新社	1998年
	171	短歌の味わい　短歌十首 自転車のカゴからわんとはみ出してなにか嬉しいセロリの葉っぱ	サラダ記念日	俵万智	河出書房新社	1987年
	171	短歌の味わい　短歌十首 おねがいねって渡されているこの鍵をわたしは失くしてしまう気がする	歌集　春原さんのリコーダー	東直子	本阿弥書店	1996年
	171	短歌の味わい　短歌十首 もう二度とこんなに多くのダンボールを切ることはない最後の文化祭	歌集　乱反射	小島なお	角川書店	2007年
	172-173	少しだけ変えてみる	書きおろし	穂村弘		
	172	少しだけ変えてみる 「すごい人」　言ってるわたしもそのひとり。金曜夜の渋谷になった	ダ・ヴィンチ2018.7月号	下目黒りんご	KADOKAWA	2018年
	172	少しだけ変えてみる もう一度触れてください　改札で声の女に呼びとめられる	猫は踏まずに	本多真弓	六花書林	2017年
	173	少しだけ変えてみる ふるさとの訛なつかし/停車場の人ごみの中に/そを聴きにゆく	新編 啄木歌集	久保田正文 編	岩波書店	2006年
	176-184	夏の葬列	山川方夫全集　第４巻　愛のごとく	山川方夫	筑摩書房	2000年
七	198-205	ガイアの知性	書きおろし	龍村仁		
	223	学びのチャレンジ　悩む力	悩む力	姜尚中	集英社	2008年
	228-233	学ぶ力	書きおろし	内田樹		

八	242	四季のたより　冬　雪 あさぼらけ有明の月とみるまでに吉野の里に降れる白雪	新編日本古典文学全集11 古今和歌集	小沢正夫・松田成穂　校注・訳	小学館	1994年
	242	四季のたより　冬　雪 初雪や水仙の葉のたはむまで	新編日本古典文学全集70 松尾芭蕉集①	井本農一・堀信夫　注解	小学館	1995年
九	246-247	豚	現代詩文庫150 木坂涼詩集	木坂涼	思潮社	1997年
	250-266	走れメロス	太宰治全集　第三巻	太宰治	筑摩書房	1975年
	270	「連作ショートショート」を書く ショートショートとは	書きおろし	田丸雅智		
言葉の自習室	308-311	悠久の自然	長い旅の途上	星野道夫	文藝春秋	1999年
	312-313	扇の的	新編日本古典文学全集46　平家物語２	市古貞二	小学館	1999年
	314-315	季節をうたう　春でぇむん	翼の王国　1990年四月号	照屋林賢	全日空	1990年
	316	季節をうたう　麗日	津軽方言詩集「ねぷた」	一戸謙三	十字堂書房	1936年
	317-319	字のない葉書	眠る盃	向田邦子	講談社	1979年
	328	伝統芸能へのいざない　歌舞伎　『外郎売り』口上	『外郎売り』	二代目團十郎 享保3年（1718年）　森田座にて自作自演	外郎売の口上大会実行委員会	2006年